

令和2年度事業報告

令和2年度は新型コロナウイルス感染症の拡大が懸念されるなか、どのように園を運営していったらよいか、ということ問われ続ける一年になりました。昨年度の年長組が卒園する時期に新型感染症拡大の足音が聞こえ始め、令和元年度の卒園遠足は中止になり、卒園式も縮小するかたちで開催されました。本年度は、4月10日より緊急事態宣言の発出を含めた学校自粛期間に本園も幼稚園部に通園する園児のみ休園といたしました。保育園部に関しては、政府の要請により休園処置は行いませんでしたが、仕事の都合のつく場合は園をお休みするように保護者をお願いをしました。結果、最終的には大部分の園児が通園を自粛することとなりました。5月18日より園活動再開しましたが、新入园児にとっては初めての幼稚園の活動が5月になり、戸惑っている様子がありました。園児の成長や保育時間の確保の為に通常の夏休み期間を大幅に短縮し、例年夏期保育を行っていた時期を通常保育日に変え8月の第1週まで通常保育を行いました。

園の行事等は、入园式を行った直後に園が休園するなど大変混乱がありましたが、感染症対策を行ったうえで開催しました。本園は、子どもの経験を第一に考え行事を行ってきましたので、たとえ中止になったとしても行事の準備や練習が子どもたちの成長に役立つことを信じ、保育を行ってきました。結果、学年ごとの開催になったものの運動会、ミニコンサートやクリスマス会を無事に終えることが出来ました。例年行っている『のびる祭り』に関しては、園外の人を招いてしまうと感染症の拡大を引き起こす恐れがあることを考慮して、園児のみの『のびるっ子まつり』を園の中で開催し、自分たちの作った作品を売ったり、園児一人ひとりがお客さんの役になって園で作ったクーポン券を使って買い物をしたりしました。園児にとっても、大人の社会を垣間見る体験ができたことにより成長の糧となった様子でした。クーポン券を何枚使ったら何を買えるという計算を一生懸命している様子もみられました。恒例行事である『うたとオペレッタの会』も当初は開催を危ぶまれていましたが、入場制限等の対策を行い開催しました。本年は45人の卒園児が無事のびる幼稚園を巣立っていきましたが、行事等の縮小によって寂しい思いをさせてしまったことを考え、卒園遠足はマスク着用や昼食時の感染症対策を行ったうえで決行いたしました。大変な一年でも、子どもたちは変わらず元気に育っていったと感じられましたが、一つ、マスクの着用等によって他人との触れ合いが少なくなってしまうことが残念に感じる一年となりました。

運営に関しては、今までより多くの消毒を行うことになったので、職員の負担が増す結果になりましたが、新型コロナウイルス感染は園内で発生はせず、既存の感染症発生も劇的に減少しました。また、財務的には新型コロナウイルス対策にかかる経費に補助があったので、経済的な負担は大きな痛手を受けることを避けることが出来ました。

学校法人のびる学園

理事長 月野 進